



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄道) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (28) 2207 番

90.4.27 No. 3207

事業団体闘争への熱い支援

動労千葉への絶大な注目を

夏季物販に結びつけよう



結団式 ^{4/23} で決意!

目標5500万円 組員ひとり2万円の貢献を

切磋琢磨

国労物販との競いあい

九〇年度夏季物販闘争は、清算事業団体闘争のかつてない高揚、全国くまなく広がった支援の輪の拡大と、三月決戦を牽引した動労千葉への絶大な注目の中でたたかわれる。

確かに、闘いは厳しいものであるが、それをやるかに上まわる条件も成熟している。動労千葉が取りくんだ団体署名の成果一つとつても、取り組めば取り組むほど、無限の可能性が広がっていると言つて過言ではないのである。

清算事業団十二名の仲間が加わり、四〇名の争議団が誕生した。分割・民営化強行、人を人とも思わぬ事業団攻撃、こうした非道に闘わずして屈していたとしたら、今の職場はない。今後のJRの「改革」などおよそ夢の又夢に終つてしまつているのである。従つて闘いの中で解雇された仲間を支えるのは、労働組合の最低限度の課題である。

周知のとおり国労も、清算事業団体物販運動を開始し、競合するという状況にある。われわれは、この国労の取り組みとも競い合いながら、大きな成果をあげるために、全力で取り組みを強

化しなければならぬことについて、はっきりと自覚しなければならぬ。とりわけ、最低限内は、清算事業団解雇者は、動労千葉だけである。

白井事業部長の 「徹」に応えよう。

四月二三日、全国物販にうって出るためのオルグ団「結団式」が全支部からの代表の出席の中でちちとられ、白井事業部長の決意と徹に全参加者が真正面から応えていった。

会議の後の「交流会」では、この間の経験談などが語り合われ、大いに盛りあがった。「政府・JR当局・JR総連のデタラメで不法・不当な労務支配なんかまけてたまるか!」「事

すでに、千葉県労連センターは、動労千葉の要請に応え、各単産、地区労議長への「協力要請」を四月十九日の事務連絡でおろしてくるという協力体制にある。こうした支援に応えざるためにも全力を尽くそうではないか。

業団の仲間や家族になりにわってやりぬこう」等々、積極的意見が己々から出され、事業団の仲間から「当事者としての自覚をもつて与えられた時間を使いきつて頑張る」という決意表明が述べられ、約三ヶ月間のたたかいに突入していった。組合員一人二万円、全国五五〇〇万円の目標完遂に向けて全力で取り組みようではないか。

事業団体闘争支援も

5/1各地区

けん引しよう
全力で結集し
訴えよう。